

那 霸 築 港 工 事 の 現 狀

内務技師 鈴木 雅 次
工学博士

三府四十六縣の中で産業的に最も民力の令しい國とされてをる琉球の首都、那覇港は日本の西南に在る昔乍らの自然港であつたが近年大に面目を改められつゝある。
内務省鈴木博士が同情ある近來の視察談である。

第一期工事 琉球に於ける唯一の重要港灣たる那覇港は往古より山原船の根據地として内外に其名を知られたりしが、明治四十年に至り工費七十二萬圓を投じて第一期築港工事を起工し大正八年に其完成を見たり、其結果港内の水深を 22 尺に堀り下け、猶ほ千五百噸級船三隻を繋留せしむべき棧橋を有するに至る因に當時の工事擔當者は徳田技師なりき。

第二期工事 然るに其後港勢の進展と船舶の増大との爲めに近年著しく港内水面積の狹隘

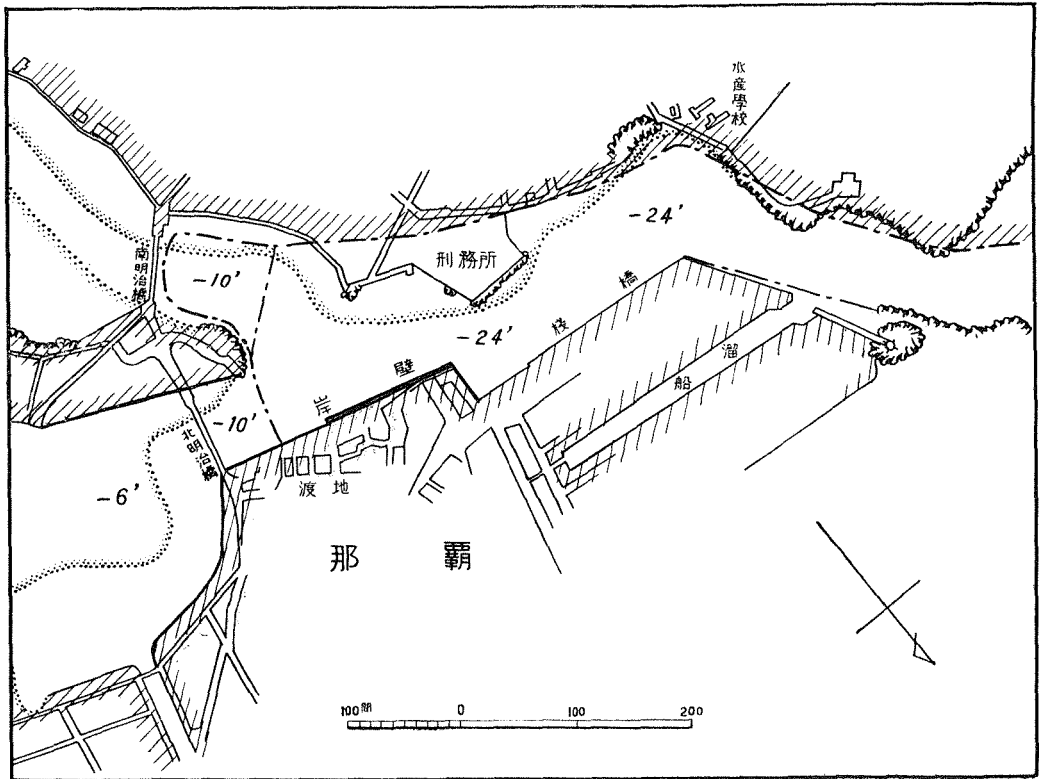
と其水深の淺小を感じ、遂に大正十年より第二期の擴張工事を開始するに至れり。

其總工費は二百二十三萬五千圓にして其中約 6 割 7 分は國庫より補助せらる。

本工事に於ける港内水深を干潮面以下 24 尺に浚渫なし、更に刑務所(跡平面圖参照)其他の岩嘴を除却して航路と泊地とを擴大せしめ猶渡地地先に三、四千噸級船一隻と五百噸級一隻とを同時に繋留せしむべき大岸壁、或は物揚場埋立地及橋梁等を築造せんとするにあ

(1) 沖繩縣那覇港面圖(昭和 2 年 4 月現在)

(1) Plan of Nuwa Harbor, Okinawa Prefecture, April 1927.



り。

大岸壁の完成 前記大岸壁は其水深は干潮面下 26 尺ありて、水底より壁頂までの總高 39 尺又其壁底の基礎幅は 17 尺にして岸壁總延長は 480 尺あり。

壁體の下部はコンクリートブロックを積み上げ上部は場所詰コンクリートより成る。

本岸壁の基礎地盤には岩盤なる所も柔弱なる泥土層なる所もありて、之が施工には相當の苦心を要したり。今や此岸壁は寫眞に示すが如く全部竣工して之に大船を横付けさなし盛に荷役の用に供せられつゝあり。

珊瑚礁の堀鑿 本港の工事として最大の特徴は珊瑚礁の大量堀鑿にして、其實例は内外共に極めて稀れなり、唯だ近く南洋サンバン島の築港に於て其起工を見んさするものあるを聞くのみ。

珊瑚礁の表面は自然の風化に依つて頗る固

く、恰も溶岩に似たるものあれども、其内部は火山灰の凝結せしものゝ如く柔質をなす、但し其中の所々に骨狀をなして硬質の岩脈縦横に走りて此等の堀鑿浚渫には極めて困難を感ず。

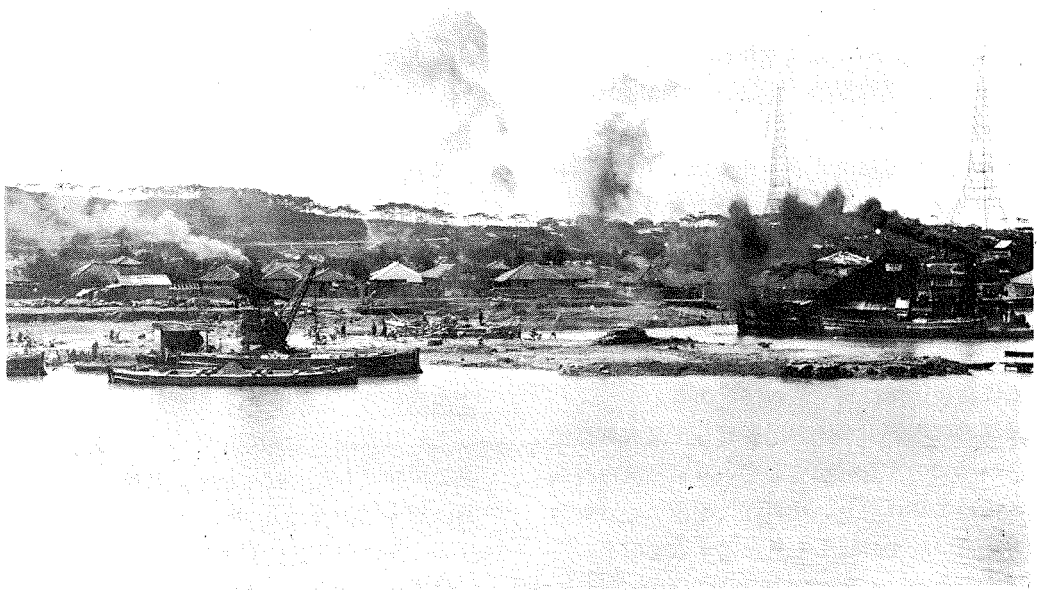
其施工方法は、先づ重錘式碎岩船を以て岩礁を荒く破壊して後に、バケツ式浚渫船を以て搔き上ぐるにあり。但し將來若し他に珊瑚礁浚渫の必要を生ぜんには余はバケツ式により寧ろ近年輸入せられしジツパー式浚渫船を撰ぶべきものご信す。

工事擔任者 以上記せし未聞の難工事に直面して、日夜困苦勉勵して遂に珊瑚礁浚渫の工事に成功せしめしは、田原正則技師にして實直温厚の技術者たり。猶ほ本工事の現在の責任者は荒池忠吉氏にして沖繩縣土木課長として敏腕の名高きものあり。(鈴木雅次談)

(2) 那覇港、新岸壁 (2 4-1)



(2) New Pier at Nawa.



(3) 那覇港、刑務所跡掘鑿 (2 4-1)

(3) Excavation at the Prison, Nawa Harbor.

ヤンバル船 | 那覇港の情景は内地ミ
と | 餘程異なり、ヤンバル(山
サンゴ礁 | 原) 船を稱する特種の船
が出入してをる、之は支那のジャンクミ
相對して世界的に有名なものである。

日本の港灣工事で**サンゴ礁**を掘鑿するのは此の那覇港が最初である、今後は南洋方面に於ても此種の工事が出来る事と思はれるが、那覇港は此の**サンゴ礁**掘鑿の爲めに施工上の設備や研究で工事着手が5ヶ年も延びたこの事である。

サンゴ礁を云ふのは火山灰の固つた様なもので、骨格をなつてをる部分は中々堅い。

(九頁より續く)

に運びシュートする積です。只今これらの設備中で根掘も初めてをります。混凝土工事を初めるのは五月末頃からでせう。冬もやる見込みで、大きなボイラー數臺を据付けビンも混凝土場も、充分保温してやる考へです。工事場は今日迄殆んど無人の境であつたので色々の設備に大分骨が折れました。(以上)